

未来技術遺産にカメラ付き携帯など49件

国立科学博物館は26日、未来に引き継ぐのにふさわしい「重要科学技術史資料（愛称・未来技術遺産）」に、カメラ付き携帯電話や、世界初のレンズ付きフィルム、光学顕微鏡など新たに49件を選んだと発表した。

カメラ付き携帯電話の先駆けとなったシャープの携帯電話は2000年に登場した。撮影した写真をそのまま携帯電話からメールで送ることができ、「写メール」という言葉が広まった。

1986年に発売されたレンズ付きフィルム「フジカラー写ルンです」により、それまで必要だった高価なカメラがなくても写真撮影ができるようになった。大人も子供も手軽に写真を撮ることが一般的になり、写真文化の裾野を広げたと評価された。

光学顕微鏡「エム・カテラ」は1914年製作。ドイツ製の顕微鏡を参考とし、良好な性能と安定した品質で量産された。そのほか日本初のテープレコーダー、初めて漢字表示に対応した電子手帳などが選ばれた。

登録遺産は計184件になる。〔共同〕

以下、日本ビクター(JVC)関連の登録(市川が追加記載)

登録番号 00005

名称 高柳式テレビジョン「イ」の字書き雲母板

理由 世界初のブラウン管式テレビの被写体

所在施設 日本ビクター高柳記念館

所有者 高柳記念電子技術科学振興財団

制作年 1920年頃

重要科学技術史資料（じゅうようかがくぎじゅつしりょう）とは、国立科学博物館が定めた登録制度により保護される文化財を指す。

愛称は「**未来技術遺産**」（みらいぎじゅついさん）。2008年10月9日第1回制定。



登録番号 00020

名称 VHS方式家庭用ビデオ(HR-3300)

理由 世界標準となったVTR

所在施設 日本ビクター久里浜センター

所有者 日本ビクター

制作年 1976年

